

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社
2025年3月期第3四半期決算説明会 質疑応答要旨

日時:2025年2月5日(水) 14:30~15:00

【連結】

Q. 第3四半期の業績は、会社予想と比較してどのような結果となったのか、連結およびセグメント別に教えていただきたい。また、業績が予想を上回っている場合、上方修正を行なわなかったのはなぜか。

A. (渡邊常務執行役員)

連結では総額売上高が若干上振れ、営業利益以下は上振れた。セグメント別では、百貨店事業・商業施設事業が上振れ、食品事業が下振れとなった。

第4四半期は説明の中でも触れた阪神梅田本店と川西阪急の改装による売上減少と、次年度の成長に向けてある程度の費用増を見込んでいる。

Q. 通期見通しの連結総額売上高を上方修正した一方で、売上高を修正しなかった要因は。

A. (渡邊常務執行役員)

総額売上高を20億円上方修正したことによる連結売上高への影響額は軽微であったため、据え置きとした。

【百貨店事業】

Q. 百貨店事業の見通しに関して、第4四半期は国内売上を下方修正していることになるかと思うが、改装影響を新たに織り込んで修正したのか。

A. (渡邊常務執行役員)

国内売上は阪神梅田本店・川西阪急の改装に伴い第4四半期で一時的な減少を見込んでいる。阪神梅田本店の改装は期初時点から投資額は変更していないが、百貨店の業績が好調に推移している中、将来の成長基盤をより強固なものとするために、現時点で必要な施策を積極的に推進していることによるものである。

Q. 関西エリアではインバウンド売上のうち、中国人売上が伸長しているようだが、地域別で見た際に変化はあるのか。

A. (渡邊常務執行役員)

インバウンド売上の構成比率は中国が6割、韓国・台湾・香港が3割というバランスは変わらないまま全体額が伸長している。中国人売上の伸びが最も高い水準ではあるものの、インバウンド売上全体の伸長率とそこまで大きな開きはない。

Q. 国内売上の動向や見通しに変化はあるのか。

A. (渡邊常務執行役員)

国内売上は想定を若干割り込む水準で推移しており、トレンドの変化は見られない。

【食品事業】

Q. 食品スーパーの既存店売上高が前年を超え復調している要因はなにか。また、食品製造や宅配は今後どのような方向性で進めていくのか。

A. (渡邊常務執行役員)

スーパーマーケットの業績に関しては、イズミヤ・阪急オアシスは上期で売上と費用のコントロールで上手くいかなかった点があったものの、第3四半期はバランスよく運営できたことで増益となった。関西スーパーマーケットに関しては、売上と粗利のコントロールがうまくいったことで既存店売上が堅調に推移している。

食品製造・宅配に関しては、事業へのインパクトを見極めながら清算や再編を進めており、苦戦が続く宅配事業も業績改善に向け着手しているところである。

以上